

跡菱協 松格協 松本 浜大丸

中心街再生に期待

市民「老舗の大手なら」

「このままでは街が暗くなる。早く新しい百貨店に入ってもらいたい」。浜松市中心街を象徴した老舗百貨店「松菱」の倒産から四年半。店舗跡の再開発をめぐり、浜松市側と「大丸」（大阪市）の本格協議入りが明らかになった三十一日、市民や周辺商店主からは街のにぎわい再生を待ち望む声が聞かれた。一方、有名百貨店の県内初進出に対し、競合する郊外大型店は警戒を強めている。

村香織さん(二)は建物の玄関口を囲んだバリケードを見やり、「このままでは街が寂しく見える。大丸誘致は良いことと思う」と期待を込めた。

「跡地に」入ってくれば（百貨店は）どこだっていい」と同市松城町の主婦五女。大丸は関西が地盤で市民にはなじ

周辺商業者「歓迎」

浜松市中心部の商業者は大丸との本格協議入り「歓迎」の姿勢を見せた。朗報を待ち続けた松菱の男性地権者は「喜ばしいこと」と笑顔を見せ、交渉の行方を見守る。ザザンティ浜松の中川隆社長も「百貨店が来れば全国から浜松市中心街の価値が見直されることになる」と来客数の増加や新たなビジネスチャンスの到来に期待する。

地を今のうちにつくらないうと」と人通り減という現実の課題を見据えた。進出が実現すれば競合することになる遠鉄百貨店は「中心市街地活性化のために良いこと」としながらも、対策などについては「出店が正式に決まった話ではなく、それ以上は特にありません」と冷静に受け止めた。

一方、郊外型大型店は強力な「ライバル」出現を警戒する。県内最大級の面積を誇るイオン浜松志都呂ショッピングセンターの鈴木真琴ゼネラルマネジャーは「競争相手が増え、今まで以上に緊張感を持って臨む必要がある」と気を引き締める。「市街地と郊外にはそれぞれ役割がある。客の利便性をさらに追求したい」と大型駐車場を併設する郊外型大型店の利点を強調した。

玄関口をバリケードでふさがれたままの旧「松菱」跡地。「大丸」の出店交渉に活性化の期待が集まる＝浜松市鍛冶町



「大丸」の出店交渉に活性化の期待が集まる＝浜松市鍛冶町

中心部活性化のため活動する若手経営者の団体「ハム」の男性は大丸に寄せる期待が大きいものの、「大丸効果にあやかるだけではだめ。そのチャンスを生かすための下

みが薄いものの、江戸時代の一七一七年に創業した屈指の老舗。市内の六十代女性は「今の浜松はどこが来ても撤退する印象がある。大手の方がありがたい」と大丸の「金看板」に関心を寄せる。市が取り組む中心街の休日歩行量調査では、松菱が倒産した年の六十万から昨年五十万人を割り込んだ。人通りが減少し、商業地としての魅力が衰退する中、同市伝馬町の自営業伊東伸幸さん(四)は「話ばかり先行しているが、本当に来てくれるのか」と心配する。

郊外店は警戒

大丸の市場判断カギ

郊外との競争も不可避

解説 松菱跡の後継百貨店に期待される「大丸」が三十一日、正式に交渉のテーブルに着くことになった。浜松市にとって朗報と言えるが、現時点で進出が完全に約束されたわけではない。大丸が求めている遠鉄百貨店以上の売り場面積の確保や、再開発に地権者の同意が得られるか、大丸が浜松地域を魅力ある市場と最終判断するかが大きな焦点となる。

仮に大丸が進出して、遠鉄百貨店やザザンティ、浜松などと共存共栄し、市民にとって魅力ある中心部の商業集積になればいいが、樂觀視はできない。郊外はイオン、イトーヨーカドーの二大ショッピングセンター（SC）に西友SCも完成する見込み。同SCには無料駐車場を備えた複合映画館

施設（シネマコンプレックス）も併設する見込みだ。中心部と郊外商業施設の競争は不可避なだけに、共存共栄するには中

心商業施設や各商店街の商業努力が一層問われ、淘汰（とうた）も予想される。市などが議論を始めた中心部の駐車場料金問題の早期改善策も待たれる。

一方、市や再開発施行者、大丸の三者の条件交渉過程で公的な補助金支出が絡む場合は、透明性や市民に対する納得のいく説明責任が求められる。（浜松総局・川北薬人）

再生に向け大きく前進
北脇市長

松菱跡再生に向け大丸と本格協議に入ることに、北脇市長は三十一日、「大丸からの回答は松菱跡再生に向けて大きく前進したものと受け止めている。魅力ある都心形成は最重要課題。関係者とともに具体的な検討を進め、一日も早く街区再生を実現させたい」とコメントした。

◇松菱と浜松市の商業をめぐる動き◇

- 平成13年11月14日 松菱破たん
- 14年6月26日 松菱跡再生協議会を設立
- 15年12月19日 松菱跡再生事業提案競技（コンペ）で「アサヒコーポレーション」（浜松市）を開発施行者に決定
- 16年3月23日 ザザンティ浜松中央館の公的支援案を浜松市議会が否決
- 8月6日 イオン浜松志都呂ショッピングセンター開店
- 9月28日 松菱の債権債務処理、所有権の移転完了
- 17年3月22日 松菱跡再生協議会が解散
- 6月24日 イオン浜松市野ショッピングセンターが開店
- 8月3日 ザザンティ浜松中央館の残債務に関する民事調停始まる
- 11月11日 イトーヨーカドー浜松駅前店が平成19年1月の撤退を表明
- 11月18日 市が松菱跡解体は平成18年度早期にずれ込むと発表
- 18年3月3日 遠州鉄道新浜松駅前に「べんがら横丁」オープン
- 5月14日 田町のキッズランドが開店
- 6月23日 松菱跡に百貨店「大丸」浮上

焦点は地権者合意

浜松市が三十一日開いた松菱跡再生に関する会見の主な一問一答は次の通り。

―地権者説明の反応はどうか。

高橋良周アサヒコーポレーション企画営業部長 B2、B3地区の臨時総会を開いた。松菱街区全体で検討したいと伝え、おおむね歓迎という感じ。ただ、各個人の条件がある中で今後協議したい。

鈴木将史浜松市商工部長 大丸から札幌店をモデルにしたという意向がある。従って正形の建物（四角形）になると、ある程度の規模が必要。最大のポイントは地権者の合意。

―建物解体時期と開店目標時期は。

鈴木部長 ことし十二月をめどにいろんな調整を重ねたい。ただ、協議項目の中に開店時期なども含まれているため、これらの交渉になる。だから時期は答えられない。

―大丸の社内コンセンサスはどのような形であったのか。

鈴木部長 二十四日の取締役会で（浜松側と）協議を進める、と社内決定したと聞いている。

―大丸は浜松をどうとらえているのか。

鈴木部長 政令指定都市になり人口八十万人と、そういう都市が百貨

再生に向け大きく前進
北脇市長

松菱跡再生に向け大丸と本格協議に入ることに、北脇市長は三十一日、「大丸からの回答は松菱跡再生に向けて大きく前進したものと受け止めている。魅力ある都心形成は最重要課題。関係者とともに具体的な検討を進め、一日も早く街区再生を実現させたい」とコメントした。

―B2建物を作る時、補助金が入っているが、額はいくらで、その処理はどうなるか。

鈴木部長 補助金返還問題は今後、国や県と協議していく。総額は国、県、市で約十一億三千万円。

記者会見 一問一答